



大池中学校だより

学校教育目標 『 心豊かでたくましい実践力のある生徒を育てる

一人目になる勇気と優しさ。これからも大池中学校に広がってほしい、優しさと思いやりの連鎖(れんさ)。

【三者懇談会期間中の放課後、地域のおばあさんから嬉しい連絡が入りました】

下校途中の2年生男子生徒2名が道路側溝に前輪が落ちているのを発見。軽自動車の運転はおばあさん。一人で困っていたので、助けようと2人が確認するが2人ではなんともならないと考え、後方から来る2年生の仲間に声をかけ、11名の男子生徒で協力して側溝から車を運び上げた。そのお礼にと、おばあさんが学校に連絡をしてくれました。一人の優しさのある行動が広がって、二人目、三人目と広がっていくことは大変嬉しいことですし、大切なことだと思います。

しかし、もっと大切なことは、『一人目になる勇気と優しさ』だと感じます。

『一人目になる勇気と優しさとは・・・』を考えてほしい。



大池中学校に広がっていく、優しさと思いやりの連鎖。先々週の大池中学校2年生男子生徒、3年生男子生徒のみなさんの心温まる行動に続き、先週の三者懇談会期間の下校時、中学校から東名阪道に沿っての走る道路から高架に入るカーブミラー付近で、おばあさんが運転する軽自動車が道路の側溝に左側前輪が落ちている状況を、2年生の〇〇さんと〇〇さんが発見し、下校途中の仲間に声を掛けてみんなで軽自動車を道路側溝から運び上げてくれました。そのメンバーが、写真の11名の2年生男子生徒です。

写真左から、「〇〇〇〇さん(2年1組)」「〇〇〇〇さん(2年2組)」「〇〇〇〇さん(2年2組)」「〇〇〇〇さん(2年5組)」「〇〇〇〇さん(2年1組)」「〇〇〇〇さん(2年2組)」「〇〇〇〇さん(2年3組)」「〇〇〇〇さん(2年5組)」「〇〇〇〇さん(2年1組)」「〇〇〇〇さん(2年2組)」「〇〇〇〇さん(2年2組)」は撮影時欠席でした)の11名です。みんなで協力して助けてくれた行動に感謝!この輪を日常の学校生活にも広げていこう!期待しています!!

【『一人目になる勇気と優しさとは…』】

上記に記す2年生男子生徒のみなさんの心温まる行動が困っているおばあさんを助けてくれました。その中でも、1番初めにその場面を見て、おばあさんに声をかけてくれた〇〇さん、〇〇さんの気持ちと行動が、周りの仲間にしっかりと伝わり、11名全員が協力をしておばあさんを救ってくれたのだと思います。これを教室や学校で考えてみてください。教室内で嫌な思いをしている人、いつもは元気なのに不安そうな顔をしている人、隣の席のしんどうそうな仲間の姿などを見たとき、気付いたときに、自分からあたたかい声を掛けたり、「大丈夫?」って寄り添ったり。このような行動ができる、一人目になる勇気と優しさを持てる人が、大池中学校にどんどん増えていくと嬉しいです。このような学校には、人権尊重の風土が芽生え、関わることによって一人一人の人権を大切にされる仲間づくりにつながる!

3年3組 ○○ ○○ () さん 日々の学習の成果！ 四日市市教育委員会が主催する『読書に関するエッセーコンクール 2025』において 中学生の部「最優秀賞」を受賞しました！おめでとう！ 本人の許可のもと、○○さんのエッセーと審査員講評を紹介！

【エッセー コンクール統一テーマ】

「今、いちばん読んでほしい本！」または、あなたの読書法・読書論について

【○○さんのエッセー タイトル】『絆で壁を乗り越える』

【○○さんが読んでだ本】『黒い兄弟』(リザ・テツナー作) あすなろ書房

「エッセー とは…」 心の奥底から湧き上がる、「自分を表現したい」と思う気持ち。筆者の体験や読書などから得た知識や情報をもとに、それに対する感想・思索(しさく:文書の本質や意味を自分で探求し問題解決や良い判断につなげること)・思想(しそう)をもとに、それに対する感想・思索などをまとめたもの。



僕が「今、いちばん読んでほしい本」は、『黒い兄弟』だ。この本との出会いは、全くもって本を読まない僕へ、父がプレゼントをしてくれたことだ。

しかし、僕が全く手をつけないのを見かねた母が、「五分だけ、五分だけでも見てみたら」と言った。仕方なく読んだ。すると、気が付いたころには時計の針が夜中の十二時を指していた。この本にのめりこんでいたのだ。

主人公ジョルジョの村が不作に見舞われた。おばあさんに後押しされ、ジョルジョはミラノのえんとつ掃除に行く。今でいう人身売買のようなものだ。

そんな、過酷な環境で親方からのひどい仕打ち。だが、兄弟を誓ったアルフレドを中心とする仲間の心を拠り所にして、ジョルジョは行動を起こす。この本を読み始め、最

初は正直、かわいそうだな、絶対いやだな、くらいにしか思っていなかった。しかし、兄弟を誓ったアルフレドやその仲間たちとの間に、固い絆を築き、今までバラバラだったそれぞれの力を一つに合わせて行動を起こす。何とも言えない鳥肌が立つような感覚になった。それは、未だかつてない程の感動でもあった。この先僕はこの話のような仲間をつくることや、その全員の力を合わせて物事に挑む機会はあるだろうか。いつか僕自身で味わいたい。

～ 中略 ～

この本を僕が今、いちばん読んでほしい本に選んだ理由は、この本を読むことで、仲間と絆を深め、協力することで、何か大きな壁にぶつかった時に解決できるカギとなるからだ。それを理解することで、今しかない中学生の内にそのカギを手に入れてほしい。

正直、僕は手に入れていないのではないかと思う。この本をもっと早く読んでおけば、成功していたかもしれないと思った。だから、今のうちにこの本を読み、カギを手に入れてほしい。

僕は、この本を読み、友達、仲間がいることがどれだけ大切なかがわかった気がする。仲間が居たら、自分の思いを託せる。その友情こそが人生において大切だということもよくわかった。

～ 中略 ～

真の友情を築くことは、いずれ自分の人生の支えになるだろう。だから、今いる友達は大切にしてほしい。もっと友情を深めてほしい。僕もそうする。いつか、真の友情を築いたことを良かったと思えるときが来る僕は思う。

【審査員を務めた先生からのコメント】

○○さんのエッセーは、中学生の誰もが抱える「人間関係の悩み」に正直に向き合っています。父親の薦めで出会った『黒い兄弟』が、○○さん自身の最も切実な悩みと真正面から向き合うきっかけとなりました。

過酷な運命の中で「固い絆」を結ぶ主人公たちの姿は、○○さんの目にどれほど眩しく映ったことでしょう。本の中の「真の友情」を鏡として、自らの現実を省みることで、○○さんは「悩みに決着できるカギ」が物語の中にあると気づきました。同じ悩みを持つ世代の仲間に向けて「今いる友達を大切にしてほしい」と力強く呼びかけています。素敵なお手本です。